

## 令和元年度第3回堺市社会教育委員会議

開催日時 令和2年2月10日（金）午後1時00分～午後2時07分

開催場所 フェニーチェ堺 M2階 小スタジオC

出席委員 餅木議長、林副議長、浅野委員、黒田委員、船橋委員、山口委員  
（欠席 植木委員、小山委員、佐伯委員）

事務局職員 田所教育次長、泉森地域教育支援部長、八木地域教育振興課長、  
梶原地域教育振興課長補佐、寺園地域教育振興課管理係長、  
岸本地域教育振興課支援係長、木村地域教育振興課職員

案 件 (1) 行政からの報告について  
(2) 今期の会議取組内容について  
(3) フェニーチェ堺 施設見学

（午後1時00分 開会）

○事務局（梶原課長補佐） 定刻になりましたので、ただいまから、令和元年度第3回堺市社会教育委員会議を開催いたします。

なお、本日の会議は委員9名中半数以上の6名のご出席をいただいておりますので、堺市社会教育委員会議規則第3条第2項の規定により、会議の開催が成立していることをご報告申し上げます。

まず初めに、開会に当たりまして、田所教育次長からご挨拶いただきます。

○事務局（田所教育次長） こんにちは、教育次長の田所でございます。

令和元年度第3回社会教育委員会議の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員のみなさま方におかれましては、本日はお忙しい中、社会教育委員会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

現在、中国をはじめ、世界各地でコロナウイルスによる新型肺炎が広がりつつあります。本日も受付にアルコール消毒液とマスクを置かせていただいておりますので、ご利用いただければと思います。まだまだ寒いようございますので、十分お体にはご自愛いただくようお願い申し上げます。

さて、今年は1964年以来56年ぶりに2回目の東京でのオリンピックイヤーとなります。4月14日にはオリンピックの聖火リレーが、ここ堺市を通ります。大仙公園のいこいの広場からさかい利晶の杜まで約3.3キロメートルのルートとなります。半年後に控えるオリ

ピックは大いに盛り上がることと思われませんが、本日の社会教育委員会会議もオリンピックの熱気のように活発な熱い、そんな意見交換にしていいただければと思っております。

本日は、冒頭に事務局からの報告があり、社会教育委員会会議での取組内容について議論されると伺っております。各案件について、各委員それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただければと考えております。

また、会議後半には、市民のための新たな文化活動施設の拠点となります、このフェニーチェ堺の施設見学を予定しております。

先日、堺の小学生の教育の一環で「体と心にいい音楽会」という催しがこのフェニーチェでありまして、ここの大ホールでオーケストラを子どもたちに聞いていただきました。私も少し聞かせていただきましたが、前の市民会館とは比べ物にならないくらい良い音がしておりました。私にそこまで細かい音がわかるかどうかはともかくとして、子どもたちも非常に喜んでおりました。初めてオーケストラを聞いた子どもたちが約半分ぐらいだったのですが、非常にノリノリでオーケストラと一緒に手踏み足踏みで喜んで歌っていました。

また、バックステージもオペラにも十分対応できるというほどの広さがありますので、舞台から観客席を見上げた時には、ここで歌を歌ったら非常に気持ちが良いだろうなと感じました。今日は恐らくバックステージも見せていただけたらと思いますので、その辺りも見ていただけたらと思います。

以上、簡単ではございますが、会議冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく申し上げます。

○事務局（梶原課長補佐） なお、教育次長におかれましては、公務の都合により、ここで退出されます。

また、本日は会議次第にもございますが、会議後半にはこの新しい市民会館であるフェニーチェ堺の施設見学を予定しております。ご案内につきましては、当施設の指定管理者である公益財団法人堺市文化振興財団の職員の方に依頼しております。

それでは、議長、進行をお願いいたします。

○餅木議長 ただいまから令和元年度第3回社会教育委員会会議を始めます。みなさん、よろしくをお願いいたします。

教育次長からのお話にもあったように、新型コロナウイルスによる肺炎、この問題でひっくり返っているような状況もありますけれども、十分に備えるということと、冷静でいるということの両方をバランス良くすることが我々の課題として求められていると思います。今の時世、情報に踊らされて過剰な動きをする風潮があるので、そこだけは本当に抑えていかなければいけないと思っています。

では、議事に先立ちまして、私からご報告させていただきます。

先週の金曜日ですが、委員のみなさんでお作りいただきました、実践報告集、これを林副議長と二人で教育長に手交してまいりました。30分ぐらいの懇談になり、実践報告集の内容について、少し説明をさせていただいたり、お話を伺ったりしてまいりました。

教育長からは、この中身を見ながら、やはり我々の思っている「つながり」の重要性とか、それから若い人たち、例えば高校生の取組、議会に参加した高校生の実践ですけど、そういったところの説明をした際に、いかに若い人たちが、中学生もありましたけども、考え方がしっかりしているというか、子どもではない、ひとりの人間として尊重すべきだというようなお話も聞かせていただいて、そのあたりについて、他部局もともにこれを共有しなければいけないというお話をいただきました。とりわけ、SDGsという視点で、今回の『「つながり」が拓く堺の未来（実践報告集）』は、評価していただきました。今まで我々は、1回目の提言書はつながりとか、楽しいとか、豊かさとか、そういったことの観点で見ていったけれども、SDGsの観点でもう一回見ると、社会教育には可能性がすごくある、いろんな人々の活動にはすごく可能性があるということもご理解いただけたと思っております。

林副議長からは、社会教育は今後どうあるべきかというお話も伝えていただきましたし、有意義な懇談になったと思っております。

さて、議事に戻ります。まず案件の1番、行政からの報告ということで、事務局からお願いいたします。

○事務局（八木課長） 課長の八木でございます。よろしく願いいたします。座って失礼いたします。

事務局より5点、報告させていただきます。

1点目でございますが、令和元年6月から8月にかけて、大阪教育大学で開催されました、社会教育主事講習に本市教育委員会より2名派遣いたしまして、無事講習を終えることができました。

現在、堺市では社会教育主事の発令は1名でございますが、平成15年度以降は社会教育主事講習へ派遣がなかったことから、今後、受講した職員が教育委員会により発令されることで、図書館における司書や博物館の学芸員同様に、社会教育における専門職として本市の教育行政に寄与すること、社会教育行政に寄与することが期待されているところでございます。

次に2点目でございます。令和元年度大阪社会教育研究会議のご案内です。お手元の資料にもございますが、一般社団法人日本プロカウンセリング協会の泉大津校代表の芦澤万里子

さんによります「家庭教育支援」という講座が、2月21日、金曜日、14時から17時に大阪市立阿倍野市民学習センターで開催されます。講演後はグループ協議となっております。もし委員のみなさまで、日程が合うという方がおられましたら、後ほどでも結構ですので事務局までお願いします。

次に3点目でございます。令和2年度の新規事業のご案内となりますが、こちらもレジュメに入れております教育CSR推進事業、こちらを実施してまいります。この事業は、企業等が学校園や地域に対して行われている地域貢献活動、CSR活動とも言われますが、これを社会においても重要な教育資源と位置づけまして、教育委員会がこれらの活動をプログラムとして登録し、市内の学校園並びに地域へ提供を行うものです。現在、市のホームページへの掲載や、産業振興局、商工会議所と連携し、広く活動の募集を行っています。4月にプログラム集を配布の予定になっております。

続きまして、こちらも令和2年のこととなりますけれども、当課事業の中学校施設開放事業です。現在、中学校の運動場を開放していますが、夜間施設照明設備を設置して実施している学校がございます。市内43中学校のうち、27校に設置していますが、それらのなかには設置から35年以上経過しているものもあり、今後のあり方も検討する必要がありますが、本市の予算編成過程において、夜間照明設備に係る受益者負担として、電気代の実費徴収について検討するように求められているところでございます。令和2年度より、実費徴収の実施の可否や徴収方法、適正な受益者負担額の算定について、本市スポーツ施設の使用料や他市状況を調査研究しながら検討を進めることとなっております。なお、各校区運営委員につきましては周知したところでございます。

5点目でございます。令和元年10月24日、25日の2日間で兵庫県神戸市のポートピアホテルにて、全国社会教育研究大会兵庫大会並びに近畿地区社会教育研究大会が開催されました。当課より2名参加しております。その概略につきまして、出席しました管理係長の寺園から報告させていただきます。

○事務局（寺園係長） 管理係長の寺園でございます。よろしく申し上げます。座ってご報告させていただきます。

令和元年の10月24日、25日に第61回全国社会教育研究大会が、神戸市のポートピアホテルで開催されまして、私と深澤副主査の2名が参加してまいりました。

今大会の研究主題は「多様性を認め合う豊かな地域のための社会教育の実践」ということで、1日目に行われましたシンポジウムでは、英語塾を経営している外国人の方や、キャンプや子ども食堂などのボランティア活動を行っている学生などもシンポジストとして参加され、異なる文化的背景を持つ人々や、世代を超えた人々と地域社会のなかでいかに共生して

いくかということについて意見を発表されました。

今後、社会がますます多様化していくなかで、文化や習慣の違いが原因となって、これまでになかったような問題も増えてくると思われますが、柔軟性やわかり合う心を持ち、価値観を認め合い、支え合いながら、一緒に考え、そうした問題を乗り越えていかなければならない、そのためには人々のつながる力、超えていく力を育成していくこと、それこそが社会教育の役割であるということを感じました。

また記念講演として、劇作家で演出家の平田オリザ氏が、「わかり合えないことから、多文化共生を目指す演劇教育」というテーマで講演をされました。そのなかで、一番印象に残ったのが、シンパシーからエンパシーへという言葉でした。同情ではなくて共感、共有することが大事であるということです。個人の文化的背景には違いがあるので、きちんと違いを顕在化させ、違いを認め合うことが共生型の社会を作っていくためには必要であるということでした。

2日目は分科会が行われまして、私は「地域がつなぐ子育て、家庭教育支援の推進」というテーマの分科会に参加しました。そこでは奈良県広陵町の社会教育委員の方が、世代間交流や地域間交流をテーマとして行った活動事例の報告があったのですが、その一つとして、ふるさとの方言、民話、祭りをまとめた冊子を作成するという活動をされていました。高齢者の方から話を聞き取り、子どもたちにイラストを描いてもらうなど、各世代と各地域をつないで、みんなで力を合わせた取組をされているということが大変すばらしいと思いました。ほかの参加者の方々とも、学校、家庭、地域の連携について活発な意見交換を行うことができました。

また、百舌鳥古墳群の世界遺産登録についても多くの方からお声がけいただきまして、全国的な注目度の高さを感ずることができました。

現在、社会教育を取り巻く状況は、人口減少、高齢化、地域コミュニティの衰退など、大きく変わってきており、また東京一極集中がますます進んで、教育や文化における地域間格差の広がりといった問題も顕在化している時代の流れのなかで、これからの社会教育の方向性、社会教育の役割は何かということを考える機会となりました。

なお、令和2年度の全国社会教育研究大会は、新潟県の長岡市で11月12日から13日にかけて開催される予定となっております。また開催要項などがまいりましたら、出席者の調整をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○事務局（八木課長） 令和2年度の全国社会教育研究大会は新潟県長岡市で開催ということですが、令和2年度近畿地区社会教育研究大会は、大阪府が担当となっております、会場

は本日使用しておりますフェニーチェ堺でございます。開催日が9月に予定されておりますので、詳細が分かり次第、ご案内させていただきます。

報告事項は以上になります。ご意見等がございましたらよろしくお願ひします。

○餅木議長 ありがとうございます。5点の報告がございました。委員のみなさんから何かご意見等、いかがでしょうか。

○山口委員 すばらしいご報告をいただいて、一つはこの堺市教育委員会が行う教育CSR活動についてなんです、こういうチラシにSDGsのマークが入っていないとか、思ってしまうんですが、堺市の市長部局全体の動きとして、SDGs未来都市に選ばれた堺市としては、これからそのSDGsプラットホームというようなものを堺市で設けて、特に大阪や堺というのは企業と言っても中小零細企業が多く、90%を超えていますので、そういった企業の方々が独自にSDGsの事業を何か行って年次報告を作るというようなことは、現実的には非常に難しいので、堺市や市民のみなさん、産官学民で協力をしながら、自分の企業でできることをやっていこうという、そのつなぎとめをするプラットホームを作ろうという動きが今あるんですね。だからこの教育CSR活動については、これは明らかにSDGsの取組であるということについて、それがわかるようなチラシにされたほうがよかったなと思います。

もう一点、先日、私は初めて知りましたが、広島県教育委員会の取組がテレビで紹介されておりました。平川理恵さんという、もともと民間出身の女性で、以前は横浜市の公立中学校の校長先生だった方が、現在、広島県教育委員会の教育長になられておられます。非常に活発な方で、この企業CSR活動というものを活用するなかで、広島版「学びの変革」推進寄附金というのがあるのですが、寄附メニューに「学校図書館のリニューアル」を増やし、広島県内の学校を対象に「学校図書館リニューアル事業」を新規事業として予算化して、すごい学校図書館を作っているとのこと。すごいです、いきなりリフォームにお金をかける訳じゃなくて、本棚を真っ白にしたり、本の並べ方や本の選び方を変えたり、床にカーペットをひいたり、ソファを置いたり、寝転がって本を読めるというような居場所づくりをしたことで、従来は毎日20人しか生徒が来なかった図書室に、今は150人ぐらい来ていて、そのことが間接的にでも学力の向上や人の輪づくりにつながっているという、一石何鳥もの効果を発しているとのことでした。

ですから、教育CSR活動で講師派遣、スポーツ、社会見学、体験活動、教材提供といういろいろありますけど、お金っていうのははっきり書いてもいいじゃないかと思ひます。書き方にもよりますが、子どもの図書費というような形で具体的に書かれてもいいかなと。それはこれからの展開になると思ひます。

ぜひ私はこの社会教育委員会議で、一度、広島県へ視察はいかがでしょうか。今から予算が間に合うかどうかわかりませんが、私は実費でも行きたいと思っています。なぜ、広島県がこのような取組を行うのか、そういうところも含めて、研究しに行きたいなど、今のものすごくわくわくしながら思っております。

それと、先程の神戸でのご報告をいただきましたが、すばらしい報告で、私は実は消費者団体の活動もしていますけど平田オリザさんは、日本でも有数の市民教育、シティズンシップ教育とか、消費者教育の専門家でもいらっしゃいます。その方が多文化共生の講師をされていると、演劇を通してというところ、非常に興味深く思いました。海外でも、多文化共生とジェンダーとどちらが先かというような学校の先生方の葛藤があったりします。人種問題が先なのか、ジェンダーが先なのかというような葛藤があったりする。そのようなところを平田さんは非常にすばらしく明快に教えてくださる先生で、そういう方に、機会があれば堺市に来ていただきたいと思ったりします。

以上です。

○餅木議長 ありがとうございます。

今の山口委員のお話につなげていただいても結構ですので、この件でみなさんのご意見やご感想とか含めてございましたらどうぞ。

○黒田委員 資料にある教育CSRの募集のチラシは、もう配られていますか。

○事務局（八木課長） ご興味があるところには配らせていただいております。

○黒田委員 気づいた点ですが、このチラシの裏面の申請書の対象というところで、「1.子ども、2.大人、3.親子」となっていますが、子どもって言うても範囲が広くて、企業によっては、例えばエネルギー系だったら中学生のほうが合うとか、そのあたりがあると思うので、年齢とか、小学校低学年とか、そのあたりを書かれた方が良いと思いました。

○事務局（八木課長） ありがとうございます。

○餅木議長 ご参考にしてください。

船橋委員は何かご意見はありませんか。

○船橋委員 中学校の図書館というのは、学校図書館司書が週に2日配置されるようになり、以前に比べて大きく変わりつつあります。生徒の使用も増えているということで、昔の図書室のイメージを持っておられる方が見学に来ると非常に驚かれます。いい意味で驚いていたということですが、そういう広島県のお話も山口委員からありましたので、またこれに甘んずることなく、学校図書館の活性化を頑張っていきたいなということで、ぜひ勉強に行きたいと思っております。

○山口委員 堺市の図書費はどれくらいですか。

- 餅木議長 子どもの人数によって変わりますが、私が昔赴任していた学校は 15 万円ぐらいでした。
- 船橋委員 本を買うための予算は結構ありますが、本を置く棚とか、そういう備品を買えないということで、せっかく本があるのに図書館にきれいにレイアウトできないということは、学校図書館司書の方からも聞きます。
- 山口委員 学級文庫はどうですか。
- 船橋委員 学級文庫は、読書週間とか、朝読とか、これは学校によって違いがありますがけれど、朝読をやっているところはもうずっと学級文庫が置かれていて、読書週間の時には、図書館から本を図書委員等が持って行って、教室で読みます。本を買う予算についての不足は余り言われませんが、もっと本を置く棚を増やしたくてもスペースには限りがありますし、学校図書館で授業をしようと思えば、中学校で言えば 40 人ぐらい入るわけで、その座席スペースを確保しながら本をどう効率的に配置するかというところが、今、本校の図書館では課題になっています。
- 餅木議長 ありがとうございます。
- 山口委員 半世紀前の小学校の時、学級文庫ってもうほこりだらけでボロボロの本がばたばた置かれていて、本が嫌いになるぐらい汚かった印象があって、今は違うんですね。
- 船橋委員 違います。
- 山口委員 良かった。
- 餅木議長 やっぱ学校自体のスペースというのが、昔ながらの 8 メートル、8 メートルの教室ですから、いっぱい人がいる中で本を読んでいるというような、そういう実態は変わらないのですが。私も広島県にぜひ個人の費用でも行きたいと思えますし、平田オリザさんはイエナプランにも詳しい方で、先日の、教育長とのお話でもこの話を出したんですけど、イエナプランについては、市議会が 2 年、3 年ぐらい前でしたかね、オランダ在住の方をお呼びして勉強会をして、私も参加して勉強させていただきましたけども、やはり未来の教育というのを試行していかないと、堺に未来はないといたら変ですけど、そんなことをひそかに思っています。ここで言ってしまいましたけど。そういう点で、閉じこもらないで、堺はぜひ外に見に行くと、恐らく最先端、オランダがそうであるように、それを取り入れている広島県は最先端を狙っていると思います。それをぜひ進取の気性のある堺でも、という気がします。
- 事務局（八木課長） 図書費の状況ですけども、平成 31 年度で小学校一クラス当たり 4 万 2,665 円、中学校一クラス当たり 7 万 9,710 円の配当をしています。クラスが多い学校はその分図書費が多いということになります。

○船橋委員 私の所属する津久野中学校だと 20 クラスです。

○餅木議長 約 140 万円ですね。図書費については、随分充実してきたなと思いますし、古い図書はどんどん廃棄できるような状況にはなっているかなと思います。ありがとうございます。

○餅木議長 浅野委員は何かありますか。

○浅野委員 社会教育委員の立場からではないですが、企業との「つながり」という点では、私の校区は臨海地区に近いので企業が多くあり、例えば子ども会に対する映画会だとか、いろんなイベントが常々開催されてきました。企業による社会貢献というか、地域貢献ですね。私の校区では、以前からこのように企業による地域貢献としての「つながり」がありましたので、堺で広くこういう形で事業を実施されるということは非常に良いことだと思います。

学校図書館の話については、以前会議の中でご紹介してもらいました「石津っ子クラブ」には、浜寺石津校区出身の方がいらっしゃって、今は違う校区に住まわれているんですが、その方がもうリタイアして、年に数回、20 万か 30 万円相当の本を寄付していただいているので、充実しています。その方とお話した際に、浜寺石津校区には協力いただいていますけれども、他の地区はどうですかと言ったら、そこまではなかなか資金も至らないので、やっぱり限定したところにしたいい、というお話を聞きました。そこからすれば、今多くの予算を学校に配当していますが、非常に高価な本が学校図書館で充実されるのは重要なことだと思いますが、子どもたちはなかなかそのような本を読むのは難しいのではないのでしょうか。今、各区にある図書館では貸出機能が充実されて、私の地区でも毎年 100 冊ずつぐらい借りています。図書館からの貸出であれば、どんどん本を入れ替えることができるので、読みたいと思う子どもが増えるのではないのでしょうか。学校に本を常備するよりも、図書館の機能を充実させて、貸出制度をもっと PR すれば、図書館の貸出数も増えるので、図書館を上手に利用されたほうがいいのではないかと思います。

○餅木議長 ありがとうございます。

○船橋委員 今、中央図書館や区の図書館では、こういうテーマで授業をするので、そのテーマに関係ある本を貸してほしいと依頼すれば、学校に持ってきてくれるんです。それで学校図書館にある本以外も調べて学習に使ったりできるという制度を本校も利用しています。

○餅木議長 それはかなり助かりますよね。

○船橋委員 そうですね。

○餅木議長 やっぱり本の種類が変わりますからね。

ありがとうございます。

○林副議長 後の議題と関わりますが、平田オリザさんなど専門家に来ていただく機会という

のは本当にいいなと思います。以前の会議で専門家を呼んで勉強会をここでしようという話もあったんですけど、そういう形も一つですが、やっぱりいろいろ新しい最先端の教育実践から学ぶということで、狭い意味での社会教育に捉われずに、「堺市の社会教育委員会としてはこのような活動をどんどん社会教育としてやっていきます」というような形で何かできるといいかなと思っています。例えば、市民の方にもオーディエンスとして社会教育委員会に参加してもらって平田オリザさんの様な専門家にいろいろお話をさせていただくとか、民間の企業の方にも講演していただくとか、いろいろな組み合わせ方があると思いますし、あと、一回のイベントで終わってしまうのではなく、継続的にできるような形で制度設計すると、さらにおもしろいかなと思います。恐らく、中学校のクラスの中では普段は出番が与えられていないけれども、こういう場でグループみたいなものがあれば学校外で活躍できるような、そういう場になるのではないかなと。以前実施した「社会教育フェスタ」、実践報告集の 34 ページにあるようなイベントを行ったときに、中学生がすごく良い意見が言えるんだなと思ったので、そういう出番みたいなものを社会教育的に提供できるような取組をしていくためにも、狭い意味での社会教育に捉われる必要はないかなと思ったりしました。

○餅木議長 ありがとうございます。

○林副議長 少なくとも私が子どもの頃は、学校のクラスで社会の問題を解決するとか、環境がどうのこうのという、何か格好つけているなという形でたたかれるような雰囲気がありましたけれども、このような学校外の場で同じ志とかを持っている子どもが集まれる機会があれば、お互いに共感したり、思っていることをいろいろ言い合えたりできる場になるので、そのような場を社会教育的に提供できたらいいかなと思います。その時に、平田オリザさんなどの専門家にもし来てもらえるのであれば、もっといろんな一般市民の方々の注目も浴びて、文化活動を一生懸命みんなでやって、いいまちづくりにつながったりして、結果としてそれが実は社会教育だったという形で私はいいいと思います。本来あるべき社会教育というよりは、より良いまちづくりとか、いろいろな形のいい実践があつて、それらをとおして自分たちで気がついたら、成長したら、そこには社会教育があつたという形。そうなれば良いかなと思っています。

○餅木議長 今日はこの後、今期の会議取組内容について、ということの中身になっていくわけですけど、全てつながっているなど。そのまま次の課題に移っていきたいと思います。今、林副議長からあつたような方向性も、みなさんから今あつたような方向性も踏まえながら、さあ何をしていくかと、1年目がこれで終わって、あと1年か。2年で一周ですか。そしたら、来年の5月までに何をするかという考え方ですね。というなかで、さあ何をしていきたいと思いますというのですが。

○山口委員 先ほどの話の続きですが、広島県の取組で、中高一貫教育をやっていますよね。それともっと感動したのは、広島県のなかには校内フリースクールがある学校があります。広島県の平川教育長が横浜で中学校の校長をしていた時も、普通の学校の中にフリースクールの教室があって、朝の登校から夕方の下校までようおらんという子のほうが多いらしいですけど、とにかく1回は来るとか、好きな農作業のときだけ手伝いに来るとか、いろいろ状況に応じて受け入れていく。

もう一つびっくりしたのは、不登校となっている多世代の若い人たち。不登校の大学生、高校生、中学生、小学生らに呼びかけると、結構集まってきたそうです。何故集まってきたかといったら、実は不登校だからすごく孤独で、親にも怒られっ放しで、家にも居づらい、けど学校にも行けないといった時に、同じような境遇の不登校の子がいるって聞くけど、みんなどう思っているだろう、ということを知りたいために集まってきたらしいですね。そしたら小学生の男の子が、親切な先生が迎えに来てくれるのが実は嫌だったとかね。正直なことを言っていて、それに対して平川教育長は、決して、不登校の子どもたちが弱いとか、わがままだとか、病気だとか、そういう捉え方を絶対にしない。そして、受験の時の内申書に出席日数を記載しないように、内申書を変えようとしているそうです。決してそれは本人たちのわがままや甘やかしということではないというところは、実際に広島県に行って話を伺わないとわからないと思っているので、行きませんか。

これからの堺市の社会教育委員会議は、学校教育に口出し、手出しをするという観点ではなくて、大人のひきこもりもたくさんあるなかで、そのような領域に一回トライしてみてもいいんじゃないでしょうか。こうあるべし、じゃなくて。この時代においては、学校に子どもたちを無理に行かすことがいいのかどうかということは、私は専門家じゃないのでわからない部分もありますけど、必ずしも学校だけが子どもたちの居場所ではないかもしれません。そうであるならば、ほかの場所に、自宅と学校以外に子どもたちの居場所ってどうやったら作ってあげられるのかと。そのあたりのところをこの社会教育の領域で、もう少し違う切り口で、社会教育委員会議だからできる手法ってあると思うんですよ。私たちの活動を実践報告集に載せていただいて、すごい良いのができています。びっくりしましたけど。すごいなと、間違いなく日本一だと思いました。掲載している内容で「高校生みらい議会」がありますが、実際に高校生のみなさんに議会に来ていただいたら、高校生のみなさんの方がある意味議員よりもしっかりしている部分があって、市議会議員がタジタジになっているワークショップもありました。

今まで社会教育委員会議の中で積み上げてきた中で、本当の意味で新しい課題というか、今解決し得ていない課題に少しでもお手伝いできることがあるのではないかなと思います。

○餅木議長 意見をいただきました。つけ加えていただいても結構ですし、違うことでも結構ですので、どうぞこれから社会教育委員会がしないといけないことですが、忌憚なくどんどん言っていて、最後は可能かどうかも含めて、広島県に視察に行くというのが浮上するかもしれません。いかがでしょうか。

○林副議長 よろしいですか。来年度何かをする場合に、予算はどの様な感じでしょうか。もう予算要求自体は終わっているかとは思いますが。例えば、平田オリザさんにお越しいただくのであれば、それは可能かとか、何かそういう見学に行く場合に何名までは無料で行けるとか、何名は私費とか、何かそういうのはありますか。

○事務局（八木課長） 全国社会教育研究大会の新潟県長岡市に行く旅費は2名分の予算は提出していますが、申し訳ございませんが、それ以外の宿泊を伴う予算は要求ができていない状況です。

あと、講師謝礼金は、どれぐらいの謝礼金額かによって依頼できるかどうか変わってきますので、そのあたりは講師予定者との調整になると思います。

○餅木議長 ありがとうございます。

○餅木議長 このような活動を社会教育委員会がすることについて、予算のことは別として、問題ないですか。

○事務局（八木課長） 問題ございません。

○餅木議長 社会教育委員会活動ということで問題はありますか。

○事務局（八木課長） はい。

○山口委員 でも大事なことは補正予算でも組めますから。これだけの実践報告集を作っているわけですから。

○餅木議長 確かに。

○山口委員 すごいですよ。日本中でこれだけのものを作っているところは堺市の社会教育委員会だけじゃないですか。

○事務局（八木課長） ありがとうございます。

○山口委員 多くの自治体では、SDGsという言葉が出てこないところもあります。やっぱり堺はすごいですね。委員のみなさま方のまとめていただく力がすごいですよね。

○餅木議長 それはみなさんがご協力していただいて、もちろん林副議長のお力もありますけど、凄く頑張っていた。この成果というのは大きいと思います。

こういう視点があって、これを改めて見たときに、この社会教育委員のバッジは覚悟してつけないと、格好だけじゃなくてね。そういう目的を持って我々はこのバッジをつけているよという目標ですから。

黒田委員は何かご意見ありますか。環境問題などは絶対に大きなテーマになるかなと、私はひそかに思っています。

○黒田委員 以前の社会教育委員会議でもお話したかもしれないですけど、やっぱり海ですね。堺市はSDGs未来都市ですが、14番の活動について、できることはもう少しあるんじゃないかなと個人的に思っておりまして、私自身は阪南市で活動をメインにやっておりますので、結構阪南市は海洋教育も盛んに行っているんですね。例えば、関西大学北陽高校の生徒とかが市内の小学校に来て、環境教育的なことをやっているのもありますし、海洋教育パイオニアスクールプログラムかな、補助金をいただいて実施しているのですが、それをもっと堺市に応用できるようなヒントを得るために、事例視察に行くのもありかなというのと、あと大人への働きかけ、私たちが実施しているイベントは子ども向けでありつつ、実は親に焦点を当てていて、子ども巻き込むと、海に来てくれるんですね。昨日も実は海苔漉きイベントで、阪南市で海苔の養殖をやっているんですけど、大人の方も海苔を生で見ると、やっぱり子どもと同じような笑顔になって、そこである意味、社会教育的なことを学校の外でも、家庭の外でもやっていると感じます。そのプロジェクトは、来年度も継続すると思いますので、阪南市の事例視察も一つはできることかなと思います。

○餅木議長 それもぜひ行きたいですね。

○山口委員 今年の4月から堺市もプラスチックごみを減らそうということで、堺市の消費者団体と、大手のスーパー、量販店と堺市の三者が「堺市域における使い捨てプラスチック削減に関する協定」を締結しました。恐らく、今後スーパーのビニール袋からかなと思いますが、全ての店でビニール袋の無料配布がなくなります。プラスチックストローもなくなってきましたよね、コンビニでも。

○餅木議長 SDGs未来都市に関連して、それらの取組が堺で今進んでいるんですね。

○山口委員 SDGsでは14番です。

○黒田委員 プラスチック海洋ごみのところですね。

あともう一点は、この実践報告集はせっかく素晴らしいのに、どういうところでこれを手にとって広まっていくのかなというのを疑問に思いました。こういう素晴らしい実践報告集を作って、見る人が増える方がいいと思いますども、どういう手段でこれを見るチャンスを増やしていけばいいのかなと。

○事務局（八木課長） 市のホームページにはこの後公開させていただきまして、社会教育関係機関を通じてPR、宣伝等はさせていただきます予定です。

○林副議長 前回の提言書の際には概要版みたいな簡単なのがありました。あれだと様々なところに持って行って、詳しくはホームページでダウンロードできるという形にするのも一つ

かなと思います。

○山口委員 もう少し夢のある予算措置が必要かと思います。広島県に視察に行くのはどうかと、私は申し上げましたけど、社会教育委員がそのような観点で視察に何うというのは珍しいと思います。学校からの視察は殺到しているそうですが、なぜ社会教育委員が視察に、ともしかしたら広島県の方は思うかもしれません。けれども、社会教育を理解されている方なら、さすがやねっていうところじゃないでしょうか。

きつといいところばかりでもないと思います。だからその辺りも教えてもらいに。

○餅木議長 視察に費用が掛かるのは間違いないでしょうが、どんな取組みされているのかとかいうことも知っておくことは絶対に必要なことだと思います。

○事務局（八木課長） 努力させていただきます。

○餅木議長 できることならば、きちんと予算で認められた形で視察させていただければそれに越したことはないと思います。社会教育委員会議、あるいは社会教育の事業にはこれだけ重きを置いているということの証明でもあった時には、予算取りというのも重要だと思いますので、よろしくお願いします。

○船橋委員 やっぱり学校現場で一番困っているのは不登校だと思います。山口委員も言われたように、一人ひとり、子どもによって対応を変えていかなければならないという、マニュアルのない世界に突入している訳です。例えば、虐待であれば児童相談所に通告する、いじめであればすぐに対策会議をすとか、被害者の立場に立って対応するなど、対応が明確な面もありますが、不登校の問題については、なかなか方向が見えなくて先生方も悪戦苦闘されていると思いますし、管理職に相談されても全てのケースで的確な指示を出しているか、本当にその子どもに合った指示を出しているかということについては疑問が残るので、学校教育が担う部分も多いとは思いますが、ぜひ社会教育委員のみなさんの力も合わせて、お力を貸していただけると学校現場は勇気をもらえるかなと思います。

○餅木議長 ありがとうございます。不登校が一番大きな課題、いじめもちろんありますけど、不登校の課題というのは社会的にも、要するに不登校になった人たちが、全部ではないですけども、高校で復帰する子が多いとのことですけど、でもその後の人生も考えた時に、またひきこもったり、社会の中で自分の位置を掴めないということになると、社会的な損失になりますから、社会で活躍できる子どもを育てる、そういう意味では、その子の人生を奪わないという意味でも、学校には重い責任が課せられているんだけど、学校も手いっぱいということもお気持ちかなと受けとめました。そういう意味で、社会、大人が学校を支援するという意味でも何かできないかなということを考えるのも本当に大切だと思います。

○浅野委員 不登校の話は、私たちもよく地域でするんですが、いじめは事象として明確なん

ですが、不登校は何が原因で不登校になるというのは、それぞれがみな個々の事情なのでわかりにくいです。私はよく学校の先生等にお伝えするのは、「その子をAさんとするなら、Aさんを知っている方が近所にいるでしょう、その方がたまたまソフトボールを指導するおっちゃんであったり、たまたま1年生で入学してきた時に、おはようと声をかけてくれた通学路の見守りの方であったりと、それぞれみんなが持っているつながりは違うんやから、誰かに声をかければ、少しでも前進することもあるやろう」と。校長でもある船橋委員がいる中で申し訳ないんですけども、私はいつも校区の学校の校長が新しく代わって来られた時には、「いろんなことをする際に、学校の中で閉じこもってしまうのをやめましょうね。この学校では不登校の子どもがいますと、大きな声じゃなくてもいいのですが、せめて地域の人に声を掛けていただいて、誰か、この子たちとお話しできる方はいませんか、ということからスタートするのが必要じゃないですか」とよく話をします。

例えば、私どもがやっている「石津っ子クラブ」でも、もともと私の校区ではなく、隣の校区で外国籍の子どもでしたが、ご家庭の問題があってこちらの校区に一時期住む必要があるということで、それならこちらでお話をしてみましょう、ということになりました。その子どもは非常に粗暴な子どもでしたが、友達ができたり、大人の話が少しは聞くようになり、よくよく話を聞いてみると、「何でかわからんけど、はけ口がないから大きな声を出して怒ってしまって、そのことが受け入れられないから不登校になった」と。その様に様々な事例がありますので、特効薬などないから、どんな小さなヒントでもいいから探しに行くという機会とか、広島県の事例の様に、さまざまな事例を視察させていただくというチャンスがあるなら、もし全員が難しくても、代表で誰かが行くなり、数名行くなりして、少しでも進めた方が水平展開になるのではという気はしました。

○餅木議長 ありがとうございます。

○山口委員 学校の課題で、船橋委員は遠慮されていますけど、私は学校の先生が足りないと思います。

○船橋委員 ありがとうございます。

○山口委員 不登校とか、いじめの問題とか何かトラブルが起こって、担任の先生がしんどくなってお休みされたりした場合、全部校長先生と教頭先生が担うのは大変ですよ。先生方の仕事は大変と言われてはいますが、本当に大変な仕事と言われている部分を、きちっと環境整備をすることと、一人や二人の先生方にいろんなことがあっても、すぐに代わりができる先生が常に学校にいるということが私は大事だと思います。臨時代替という考え方ではなくて。特に5教科以外の、美術とか体育とかの先生は何件もの学校を持ち回りしています。やっぱり毎日子どもたちと一緒に過ごすから、先生と打ち解けて授業が受けられるのであ

て、その辺りももっとはっきり数字で示していかないと。不登校の問題が起こった時には原因もはっきりしないし、子どもたちが本当の所を話してくれないから大人たちが右往左往する、親も大変というときに、地域でその子とつながりを持っている方がいればいいのですが実際、ほとんどいないと思います。そんな状況の中で、学校の先生が直面するDVとか虐待とか性犯罪とか不登校とか、学校にカウンセラーを一人、二人配置していても難しいと思います。だから専門家集団を作って助けてもらわないと、全てをその学校の先生方が担うというのは、私ももう限界がきていると思います。

- 船橋委員 ありがとうございます。
- 山口委員 人を増やしていかないと、もう学校なんてもたないです。
- 浅野委員 特に小学校は、先生いらっしやらないから。
- 餅木議長 基本的には人は減る方向で。
- 山口委員 それがおかしいんです。
- 浅野委員 去年は各学校に一人か二人手当されたんですか。
- 船橋委員 小学校の何校かに生徒指導主事加配がされています。中学校には全校配置されていますけど。
- 山口委員 小・中学校で、不登校だった子どもが、最後のセーフティネットの夜間高校に行くと、高校の先生方が「山口さん、高校1年で「あかさたな」のな行以降を言えない子が入学してくるんや」と「ほんまに不登校の問題については、子ども自身のためにも何とか対策を早く打たなあかんと思っています」とおっしゃるんやけど、それは相当大変なことだと思うんです。
- 浅野委員 私は地域の代表として話すのですが、学校教育はあくまでも勉強を教えるというところに特化しすぎて、「地域を大事にきなさいよ、地域と一体化しなさいよ」という話をしたって、その地域とのおつき合いができる余裕すら学校の先生にはないというのが現状です。学校の先生方から地域に向けて「こんなんどうですか」とか「一回こんなと一緒にやりましょうか」というような提案をする余裕はなくて、こちらが声を掛けてやっとできるというのが実態なので。その様な取組みは、社会教育、地域教育、学校教育といろんな言い方をするけれども、誰かが歩み寄ってやらないと前へ進めないでしょうね。
- 餅木議長 すごく大きな課題になってまいりました。社会のあり方みたいな感じではありませんけど、それが現実なので。今、興味深かったのは、不登校というものを学校の課題として捉えるのではなくて、あるいは地域で担うというだけではなくて、我々の問題としてもう一回、社会教育も含めて考えてはどうかというのが軸にあったかなと。そういった子どもたちをどうつなげていくとか、どういう居場所を作るかというなかで、社会教育としてできる

こと、先ほど話題に上がったような、阪南市の取組みとか、平田オリザさんの件とか、その様な場を設けるところだったら学校でない場所ですから、そういった不登校の子どもたちも来やすくなる可能性がある。興味を持ってそこで何か充実感とか、自分の目標とか、そういうのが持てたら、そう簡単にはいかないと思いますけど、とても意義のあることになるかなと、そういうものをモデルとして示せたらいいなというお話だったかなとまとめました。

あとは視察に行くということも含めて、これは我々社会教育委員会議から教育委員会への提起でもありますけど、お金がかかっても、未来の社会のためにはそれは決して無駄にならないんじゃないかなということを、もう一度社会教育委員会議から発信するという事で、議事録に残していただくということにしたいと思います。

○事務局（泉森部長） 本日は貴重なご意見ありがとうございます。

まずは広島県の視察から、最後は不登校の関係といった形で幅広くご議論をいただきました。どうも本当にありがとうございます。

何かをしようと思えば予算が必要ですが、社会教育といった部分で必要な予算をまた担当課とも話をしながら、確保しにいきたいと思っております。

それと、海洋環境問題、子どもに言いながら大人に伝えているというのは、これは非常に興味深い話だなというように思いました。こういった部分でも阪南市にも視察に行けたらいいと思っております。広島県については、予算を頑張って取りにいて、対応できるように努めたいと思います。来年度又は再来年度には必ず取りたいなと思います。

また、図書の話とか、有効に活用して、図書室が子どもの居場所になるといった部分では、これも非常に素晴らしいなと思っております。

本日いただきましたご意見は、議事録に載せて広く共有していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○餅木議長 どうもありがとうございました。

では、今回の第3回社会教育委員会議の前半部はこれで終わりたいと思います。

（午後 2時06分 閉会）